

2. 『ロコモキャラバン』からの提言

(宮田重樹)

目的：『市民公開講座（ロコモキャラバン）』の開催は、SLOC公益事業3本柱の一つである。その具体例を紹介し、今後の運営の参考に供したい。

方法：講演会の運営は、「今日の健康」の制作に携わるNHKエデュケーショナルズに委託し、SLOCや演者と協議のうえ、講演会の台本、スライド、ビデオを作成し、アナウンサーが司会者となり、来場者のロコモの理解度が深まるように工夫した。市民公開講座をロコモキャラバンと命名し、第1回を8月9日大阪市で「ロコモと認知症」をテーマに開催し、台風直撃にもかかわらず、187名の一般市民が来場した。講演の合間に、NHKが用意した、認知症患者、転倒骨折した骨粗鬆症高齢者、運動で元気になった高齢者の3本のビデオを放映した。単に言葉のみで講演するより、映像を見て本人や家族の話を聴くと来場者の理解度は深まっていた。2演題の講演終了後、演者と司会者が壇上で討論を行い、その後ストロコくんやストロコちゃんと一緒にロコトレを行った。第2回は「ロコモと骨粗鬆症」をテーマに10月5日札幌市で開催し、参加者は227名だった。第3回は3月1日福岡市での開催を予定している。

結果：来場者の意見は、具体的事例を交えての解説がわかりやすく、体操とダンスが参考になり、日頃の運動がとても重要というものだった。また、司会者と講師の対話形式の話がよりよく解りやすく、ビデオとスライドが良くできていて解りやすく、さらに司会者の質問が一般市民目線であり、極めて理解しやすかったということであった。

考察：医師のみの運営でなく、放送会社が関与し、プロのアナウンサーが司会することにより、一般人の目線で専門家に語りかけ、知りたい内容を上手に引き出すことができたと考えられる。

来年度は、年2回開催を予定している。今後この企画を全国に拡大、継続していくためには、各県COA会員の人的支援をはじめご協力が必要不可欠と感じた。